

平成24年度第1回大津町振興総合計画等評価委員会 議事録

1. 日 時：平成24年9月4日（火）9：30～12：20

2. 場 所：大津町役場 4階大会議室

3. 議題等

(1) 開会

(2) 議事

1) 大津町振興総合計画基本事業の評価について

健康福祉課・保険医療課・子育て支援課・人権推進課・企画課・企業誘致課

2) その他

4. 出席委員等

関係団体等	氏 名	備 考
学識経験者（熊本県立大学教授） 委員長	明石 照久	出席
大津町企業連絡協議会会長	池松 康博	欠席
大津町社会教育委員	伊東 祐紀	出席
大津町教育委員	井野 美幸	出席
大津町区長会会長	宇佐川 恵	欠席
公募委員	緒方 正男	出席
女性グループ（大津町女性の会会長）	坂本 晶江	出席
大津町農業委員会会長	瀬川 友次	欠席
障害者関係団体（大津町身障者福祉会）	中村 静次	出席
商工会（商工会理事・青年部長）	西川 秀貢	出席
公募委員	松岡 征一郎	出席
大津町社会福祉協議会事務局次長	松木 雄一郎	出席
まちづくり関係団体（明日の観光大津を創る会総務委員長）	水島 源廣	欠席
公募委員	与古田 公子	出席
大津町民生委員・児童委員協議会会長 副委員長	吉田 和信	出席

（五十音順）

5. 委員会傍聴人 なし

開会

町長挨拶（徳永副町長）

委員長挨拶

議事 1) 大津町振興総合計画基本事業の評価について

企画課（まちづくりアンケート）について説明。

企画課（P179～P180、P184～P185、P197～P198、P206～P207、
P214～P215）について説明

伊東委員 アンケートは、町の行政に対する一般町民の評価ととらえています。ところが、標本数が無作為で1,500人、回収率が40%で実際は600人となるわけですね。標本数をもう少し増やしてみればアンケートの信頼性が高くなってくると思います。それと同時に、P206とP179の達成度の目標値が、30%、35%となっていますが、これが町の行政に対する評価だと思います。この数値が30%でいいのかと思います。

企画課 アンケートの標本数につきましては、郵送料とか考えまして、今回は1,500人の無作為抽出をさせていただいたのですが、本来は1,000くらいの標本数でしたほうがいいのかなと考えております。回収率が、今年は39.7%となりまして、これで標本数1,000くらいとすれば、2,000～2,500通くらいに上げていかなければならないところですけども、600位でありまして、そこそこの信頼度はあるかなとは考えているところです。それから、評価の目標値が低いのではないかという部分ももちろんございます。しかし、目標値を上げて、なかなか達成できない。それを少しずつでも近づけて行こうとすると、そこに努力が必要ではないかなと考えており、達成したらまた上を目標にしながら、さらに満足の高い行政サービスに努めていくのが必要ではないかなと考えているところです。

松岡委員 行政職員が、それぞれの地域に行って説明されています。そういうような地域での生の意見を吸いあげるのは、いいチャンスだと思うが、説明会はどれくらいなされていますか。

企画課 地区担当職員による「ことしのまちのしごと」の説明会の際の住民の意見の聞き取りのことではなかろうかと思いますが、実際、地区に行って説明をしているのが、20まではなかったと思います。

松岡委員 一年に一回だけど、こういう機会を利用して生の意見を町政に反映させるような手立てを、町の職員は、区長さん、させてくださいと、皆さん方の意見を吸収してそれを行政の施策に活かしますから、それをぜひお願いしますと、それをやることによってコミュニティが形成されて来ると思うのですよ。だからそれができないというのは非常に問題。

それから、いじめはあっていませんかと、あるかないか分からないと思いますけど、あ

るという前提に立ってやっていったほうが、問題が起きたら教育委員会は大変なことになりますよ。そういう意味でも、地域に情報公開することによって教育委員会のあり方も変わるのではないのでしょうか。

緒方委員 P184 のホームページの件で、最新の情報を載せてあるということですけど、例えば地蔵まつり、この記述は23年度の記述が書いてありました。これは25年度の何月にあるよというのが本来ではなかろうかと思います。からいもフェスティバルも同じ、23年度分しか書いていない、これも24年分の計画があれば、24年分を書くべきじゃないかなと思いますけど。その他のイベント関係もそういう状態であれば、同じことではないかと、もう一回、再確認をしてもらいたい。

それから、施設案内で、最近オープンした交流会館、歴史文化伝承館、ビジターセンター、子育て・健診センター前の中央公園は、施設案内には書いてないです。それと、交流会館なんか、町民の人は何をするとところだろうかということで、料金はいるのか、外部の人も来ていいのか。その辺がはっきりしていないし、その辺よろしく願います。

企画課 ホームページの掲載情報につきましては、なるべく新しい情報ということで取り組んでいるところでございますけども、再度、各課に通知を出しながら、最新の情報を掲載していくよう取り組んでいきたいと考えております。

坂本委員 P296～297です。町の政策に町民の意見が反映されていると思う人の割合が30%を切るとても低いんですけど、その評価に対して、町民の意見が行政運営に反映できるような体制を確立し推進する必要がありますと書いてあります。具体的にどういことを予定しているのでしょうか。私も女性の会で、自分たちの活動できる場所の確保ということで、結果的には使わせていただくようになったのですが、本当に私たちがお願いしていることと、それに返ってくる行政の返事を得られるまでのプロセスを考えると、町民の要望というのが本当に町に届いてないと思いましたが、町がいろいろな建物とか施設を作る時に、そういった要望を活かされてないというのをすごく感じました。評価の中に住民の意見を十分に反映できるような態勢の確立をしていきますと書かれていますが、それは具体的にどういことを予定しているのでしょうか。

企画課 今後の課題と取組方針のところに書いてありますように、住民の意見を行政運営に反映できるような体制を確立し協働によるまちづくりを推進する必要があります。必要性については、十分私たちのほうも認識しているところです。住民の方への情報公開、透明性の向上、そういったことを通じて、体制がきちんとできれば、少しでも、住民の方の意見が行政の方に反映できるのではないのかと考えているところでございますけども、どれが最善なのかというのは、まだまだ私たちも、暗中模索をしている状況です。

坂本委員 暗中模索ということは対策がないということですか。

企画課 今、情報の公開と透明性の向上、これが、一番効果があるのではないかとということで取

り組んでおりますけども、それをやったから、次の反映ができるような体制になるのかというのは、まだまだ検証されておられませんので、まだまだ暗中模索の状況ではないのかということです。

坂本委員 行政の中に、何でも懸案になっているような事項を庁内で共有する体制、システムではなくても、心構えというか、そういうのがあるのかなとすごく感じましたので、ぜひ必要性があるということだけではなくて、もう少し積極的な制度づくりというものにつなげていってほしいと思います。

松岡委員 関連して、組織の中としては、その課、その課ではないですか。ここに行けば、一応そこで聞いてもらって、それを皆さんの中で共有してもらって議論していただくというようなことも必要ではないかと思うのですよね。だから町民のニーズを、民意を行政に反映させるということが行政の基本であるとするならば、そういうようなことが、システム的に必要ではなからうかなと、役場のあそこに行けば、それが結果としてフィードバックされるというような、それは予算、人員、スタッフもありますから、簡単ではないかと思うのだけど、そういうのも考えるべきなのではなからうかというふうには思います。

企画課 町でも役場、生涯学習課、図書館に町政への提案箱を置かせていただいております。町政への意見がございましたら、受付し、それぞれの関係する課の方に回し、町長の方に報告するというシステムを取っております。また、アンケートなど、広く住民の意見を募りながら、町政に反映させていきたいというようなことにつきましても企画課が担当しております。ただし、それぞれの判断につきましては、それぞれの部署で判断するというような体制はっております。

委員長 次が健康福祉課の事業になります。よろしく願いいたします。

健康福祉課（P1～2、P21～P22） について説明

松岡委員 P22 の生活習慣病に対して、40歳以上対象の受診率が低いでしょう。これに対する対応について、何か考えられておられますか。

健康福祉課 いろんな啓発を図っていかなければならないと思っておりますが、皆さんの興味があるような教室の実施をしていきたいと思っております。本年度から、みんなが出来るような軽スポーツを含めた事業、ラジオ体操とかできるような教室を設けております。ダイエット効果も見えるというような、皆さんが興味をもたれるような項目を入れて教室を実施しようと思っております。

松岡委員 問題としているのは、受診者の数、受診率が少ないということです。これを増やすことで、早期発見、早期治療ができるとして、医療費が抑えられればいいのですが、もう少し工夫をして啓発するような手立てをとることが必要ではないかということを提案して

いるわけです。この前、健診に行きました。あの時は、町の職員の方は誰も顔見せられていないわけです。いつまでもコピーが故障して、その説明がなかったのですよ。だから町でやるならば、初めだけでもいいから、説明もしていただくと、町民の気持ちも違うと思う。実施主体者の顔が見えない。そういう意味で不親切ですよ。

我々、郡部のほうはコミュニティがあり、いろいろな行事があり、体育祭、ミニバレー、グラウンドゴルフをしたりしますから、その時に、職員の方に来ていただいて、受けてくれないかとおっしゃっていただくと、啓発ができると思うのですね。ただ文書送って受ける、いざ実施するときに職員はきてはおらなくては、これ以上は増えていかないと思うのですね。顔の見えるイベントをやられることが大事ではないでしょうか。

伊東委員 関連して、成人病が入ってないですね。脳梗塞とか脳卒中とか心臓病とか、三大成人病の検査は、この中で特定診断か健康診断の中に入っているかということと、大腸は内視鏡があります、胃の内視鏡はできないのかということと、同時にピロリ菌の検査ですね。胃透視だけではピロリ菌とか中々見つけにくいと思うのですよ。予算の都合もあるかもしれませんが、ゆくゆくは胃の内視鏡とピロリ菌検査を考えてみられたらどうでしょうか。それと若い人のがんは進行が早いそうですね。受診の年齢を下げることができないでしょうか。これも予算がからむことで難しいとは思いますが、ゆくゆくは余裕があれば考えていただければと思います。

健康福祉課 現在、ピロリ菌の検査はオプションでしか対応していませんので、今後、検討していきたいと思います。

井野委員 先ほど年齢の話がありましたが、年齢別の受診率はデータとして出ていますか。

年齢だったり、男女別だったり、いろんな視点も違いますので、そういうところで年齢別の推進の仕方もあるのではないかなと思いますので、その辺も加えて、推進していただければと思います。

吉田委員 P1～2の地域福祉の関係です。前年度、社会福祉協議会と行政とで地域福祉計画を実施していく中で、座談会で、社協の人員が少なすぎるのではないかと指摘させていただきました。今年度、1人増員をして体制を整えたということが実現したことについて、ありがたかったと思います。どういう働きをしていくかという内容面について、期待しているところでありまして、今後、地域福祉の申し出が増えていけば、それだけ人員が必要となってくるだろうという思いもして、区にそういう取り組みがなされることが願われているだけに、適正に人員配置をお願いできればというふうに思います。

伊東委員 関連して、子どもから障害者、高齢者の地域福祉活動を推進するには、地域福祉委員という方がいますね。この存在がどうしても分からないのです。指定を受けている10地区の地域福祉委員さんに聞いたら、いろんな仕事をされているのです。それ以外の地域福祉委員さんについては、存在というのがなかなか見えません。10地区指定を受けているところは頑張っておられます。それ以外のところですね。20地区に増やすということだっ

たら、そこそこ増えてくると思いますけども。それから地域福祉推進委員さんの横の連携をぜひとってもらいたいというのを、行政に啓発してもらいたいと思います。

松岡委員 私たちの地区は、民生児童委員の方が私たち（下町）と上町、2地区で一人です。私たちの地区から出られたときは分かりますけど、上町の方はほとんど知らないわけです。だからさっき話のあった活動は出来ないと思うのです。本当に福祉活動をしよと思うならば、そこに1人ずつおらないと、なかなか実質的な活動は無理ではなからうかと。今の民生委員さんは知っていますが、言葉も交わしたことがない、どこの誰かわからない、名前も知らんというかたちでは、活きた民生児童委員の活動は出来ていないと思います。

室の公民館ではミニバレーとかビーチバレーとかできますか。

健康福祉課 できると思います。

松岡委員 たとえば、あそこに行けば、何曜日と何曜日の午後はあそこですよりますから、来てやってみませんかということであれば、参加される人も増えるのではないのでしょうか。何曜日は高齢者を中心にここでやっていますから参加しませんかと。ミニバレーとかビーチバレーであれば相当年配でも出来ますし、無意識のうちに体を動かすわけですよ。そういう日を広報か何かで流されれば、そこは自転車でも行けますよ。それ考えてください。

健康福祉課 民生委員さんについてですが、今、民生委員さんは少ない人数で頑張っておられます。大変広い地域をもっておられますので、いろいろご苦労をかけていると思いますが、なるべく身近なところで出来るような方策を考えていきたいと思います。それと軽スポーツですが、子育て支援センターで、簡単な運動、体に負担がかからないような運動、誰でも参加できるような運動をスポーツインストラクターが指導してやっているような教室でございますので、その辺も参加していただければと思います。

松木委員 社会福祉協議会補助金で、町の大事な税金を社協に補助金をいただいております。その中で、町と協働で、現在、地域福祉活動計画と地域福祉計画を併せて推進をさせていただいております。現在、地域福祉推進委員さんは、8割程度の行政区からご推薦いただいております。推進地区の方は活動が盛んで、その他の方は、現在、勉強していただいているというところで、地区によって活動の内容が若干変わってきますので、地域の実情において活動していただくような形で考えています。町全体を考えますと、あまりに広いと考えていますので、本年度から、護川小校区でこの前、民生委員さん、区長さん、地域福祉推進委員さんに対する説明会をさせていただいております。町全体としては、9月に全体を集めて進捗状況等を説明させていただいているところです。今後は地区担当職員さんとの連携を強化しながら、協働というパートナーシップ、この部分でもっと推進していければと考えているところです。また、精神障害をお持ちの方々に対する相談窓口は包括支援センター内にあるのですが、今のところ一名の配置ということで、非常に多忙を極めていらっしゃるのではないかなと思っています。相談を受けたあと、いざ動くとなると、なかなかひとりでは動けない。そこに寄り添う方が今から必要になってくるのでは

ないかなと思います。社協といたしましても、地域福祉権利擁護事業で県から補助をいただいておりますけど、ここにも人的な支援をもっとお願いしたいと思っております。

中村委員 私は脳出血で倒れて9年目に入り、4年ほど前から身障者福祉会に入っており、いろいろ活動をしているのですが、年々、補助金が削られてきている気がするのです。障害手帳を持っている方が町内で1,500名ですが、今、会員として活動している方は、90名そこそかなんですよね。みんな高齢者になってきて、あと何年かしたら、消滅するのではないかなという危機感を持っております。個人個人は身障者の会に入りませんかと勧誘しているのですが、なかなかそう上手くいなくて。役場のほうは、それは個人でやってくださいということで、今どうしようか迷っているところなんですけど、この4万円という補助は増えないものかお尋ねしたいのです。

健康福祉課 多くの補助金を要望していきたいと思っております。

委員長 保険医療課のご説明、それから質疑、ご意見を承るといふかたちで進めさせていただきます。

保険医療課（P5～6、P8～9、P15～16、P18～P19、P24） について説明

緒方委員 健康寿命とか平均寿命とか言われておりますけど、大津町で男女の比率、健康寿命と平均寿命これはわかりますか。

保険医療課 調べればわかりますが、今は資料がなくて、すみません。

与古田委員 マッサージに対する補助ですね。医療費の低減や健康維持にもつながると思いますので、どこの自治体がマッサージに補助を出しているかぐらいは調べていただきましたでしょうか。

保険医療課 医療行為という関係で補助を出しているという状況ですけど、マッサージになると、これが医療行為になるのかどうか、その判断が難しいということで今のところ出してないということだと思います。そういうことで補助を鍼灸のみに絞っているということだと思います。

与古田委員 今後も、マッサージに対しては、いくら運動しても、マッサージで治るという認識はなさらないということですか。

保険医療課 私も健康体でマッサージをお願いしますと、非常に気持ちがいいのですが、それを補助対象にしてしまったら、キリがなくなるような感じがするので、どこかで線を引かないと医療費がますます増大していくという懸念はあります。

鍼灸券を出しておりますけど、現実にはマッサージもされている感じも受けます。

与古田委員 鍼灸をされる人は、少しはマッサージもやっているかもわからないけど、マッサージだけやりたいという人も中にはいると思うのです。今後、鍼灸協会とかで運動してもマッサージに対しての補助は出せないということであれば、考えなければいけないと思いますので、せめて実施している市町村はどういう理由でされているかぐらいは調べていただきたいと思います。

委員長 先ほどの平均寿命のお話と他の団体の補助の実情について調べてほしいということですが、資料で出していただくことは可能でしょうか。

保険医療課 可能です。

井野委員 学校訪問をしておりますと、幼児期から虫歯の処理が終わってない方が非常に多くて、県下でもワーストに近いほうの数字を出しております。そのあたり、教育委員会からの情報も得ていただきながら、予防も含めた保健指導をお願いできれば、いくらか低減していくのではないかと思いますので、その辺のお力添えをお願いしたいと思います。

保険医療課 学校で定期的に歯の検診をしております。

井野委員 やっていますので、予防を含めた保健指導をお願いしたい。学校には養護の先生もいらっしゃいますので。

健康福祉課 現在、熊本県でも、フッ素塗布事業を進めているところです。大津町も保健指導を含めて、学校なり、幼稚園等に強力に推進していただけるように要請しているところです。フッ素の材料等は県から無料配布ですので、あとは実施していただければと思っています。その節は、町の保健師、県からも指導に来ると言われていますので、実施を計画しているところです。

井野委員 フッ素塗布もそうでしょうけど、保健指導というか、細かい部分を含めたところで、ご指導いただければと思います。

松岡委員 要介護というのは、身体的なものと精神的なものと2つあるのではないだろうかと思うのですね。公民館の講座がありますけども、高齢者になると夜は出られないという人がおられるわけです。今度、国際交流員が来られて夜の公民館講座がありますけど、そういう英語を勉強される人が、夜は出られないとおっしゃるのですね。一番頭を使うのは何かというと、語学を勉強することですよ。数字の計算と語学、これは非常に頭が活性化せんとできないのですよ。認知症を防ぐ面でもぜひ一つ利用して、機会を作っていただくと幸いかなと思います。ぜひ一つ考えていただきたいと思います。

委員長 子育て支援課のご説明をお願いしたいと思います。

子育て支援課（P11～12） について説明

松木委員 児童虐待に関しても取り組みは何かされていますか。

子育て支援課 十分とは言えませんが、児童相談所ならびに教育支援センターと福祉、子育て、教育と連携を取りながらやっているところですが、この事業にはあがっていません。事業を見直す時に要保護対策事業ということで、追加させていただきたいと思っています。

伊東委員 P14の待機児童対策事業で、待機児童の解消というこの事業の内容を教えてくださいませんか。

子育て支援課 この事業は、23年度に行いました。大津保育園で、90人の定員を120人にさせていただいたときの建物を増築のリース料等と職員の報酬です。

坂本委員 P14の質問ですけれども、障害児保育事業は子育て支援課でやる場合と、その下の大津保育園でやるところと2つあるのですけど、この事業の内容について、教えてくださいたいのです。

子育て支援課 今、障害児の発達障害も含めたところで人数が増えています。大津保育園でも当然、障害のある子どもさんを保育しており、それと合わせまして、子育て支援課から障害児保育につきまして、残りの5つの園に対しても、同じように障害のある子どもをお願いしておりますので、その分の加算で支給している金額となります。

坂本委員 障害をもった子どもに対して、子どもたちを見る専門の保育士さんということではないのですか。

子育て支援課 専門であるに越したことはないのですけども、専門の方ではありません。一人で見るところに少しのサポートをお願いする方の費用になります。

坂本委員 人数は分かるのですか。

子育て支援課 全保育園に障害のある子どもを見ていただいており、一つの保育園にはかなり多く7～8人はおられまして、対応をさせていただいています。

坂本委員 その方が、障害のある子たちを、専門家ではないけれども、別にやっているというかたちですか。

子育て支援課 担任の先生は当然おられますので、例えば20人の子どもを1人の保育士が見る場合に、その中に気になる子どもがいますので、1人保育士をサポートすることで、その子

どもを一緒に見ていただいているというところです。

坂本委員 今増えているという現状の中、専門知識も必要だし、こういった対応をするとその子の成長にとっていいかという研修も大事だと思いますので、ぜひそういう機会を保育士さんに身につけさせてあげたいと思います。

もう一つ質問ですけど、放課後児童健全育成事業の中に、これも2つあって大津小学校の方は『NPOのこどもサポート』、それから室小の方は『みんなのおうち』、これは一緒ですね。その下の、大津小は『四つ葉学童クラブ』、室小は『コスモキッズクラブ』とありますが、別の事業体があるのですか。

子育て支援課 学童保育は町が事業主体であり、それを委託することによってNPO法人に見ていただいています。NPO法人と一字保育園、白川保育園、緑ヶ丘保育園でも同じように学童保育をお願いしています。それと、先ほどの件で、当然、障害児を預かるには、職員のケア、サポートも必要ですが、そのことを踏まえたところで、今、一つの委託事業として考えているのが、専門知識がある方を雇用するのは、保育園では難しいので、専門知識がある方に各保育園を回っていただいて、その個人個人に対する分のサポートの仕方を助言していただくような事業を始めようと思っているところです。

坂本委員 それはぜひお願いしたいと思います。その前の説明で、室小と大津小はNPOがやっているものと別にあるということですか。

子育て支援課 NPO法人が2つやっているのですが、指定管理と補助金があるということです。運営主体はどちらもNPO法人です。ただ、町の取り組み方としまして、町の施設の中で学童保育をされている分につきましては指定管理をお願いしていますし、また、町の施設でないところでお願いしている分について補助金と言うかたちでさせていただいています。

坂本委員 大津小と室小は学校の建物以外で作っているということですか。

子育て支援課 はい。

坂本委員 地域の子育て支援拠点事業を利用している人は、幼稚園とか保育園に行っていない子のお母さんたちが、子どもを連れてここにきているのでしょうか。

子育て支援課 はい。概ね3歳未満の親子連れで、幼稚園とか保育園に行っていない方が主です。ただし、幼稚園とか保育園に行ったらっしゃる方もその空き時間にご利用はされているところです。ただ、メイン事業としては、通常の午前中に行いますので、幼稚園、保育園に行っていない方になると思います。

坂本委員 どのくらいの方が利用しているかわからないですか。

子育て支援課 21年の10月から開所しています子育て・健診センターの方には、年間15,000～17,000の人がお見えになられて、毎日利用をされています。

実際に事業をやっているのは、NPOさんの『あぼり』と『みんなのおうち』だけになるのですが、やっている場所としては2か所です。

坂本委員 子育て支援センターでは町がやっている事業ですか。

子育て支援課 町がNPO法人に委託をして事業を行っています。

坂本委員 あそこにいらっしゃる人は、NPOの職員、場所は町が提供しているということですか。

子育て支援課 はい。

与古田委員 家庭的保育事業を熊本県で初めてされましたが、待機児童に対する解消として、今後とも希望があったら、家庭的保育事業は増やしていかれる予定とか、この事業を実施されて良かったとかそういうのはございますか。

子育て支援課 熊本県で初めて大津町がさせていただいたところですけど、この保育者にあたられる方が非常に楽しみながら、子どもさんを預かっていることが、子どもの成長にとって非常にいい方向に進んでいると思っています。この事業の拡大拡充につまましては、今月から第2段の研修会に入りまして、研修を受けた方で、適当と思われる方がおられて、適当な場所において、大津町が意図するところに事業を開始できるところであれば、担当としては、もう少し増やしていきたいと思っていますところですが、費用面もかかってきますので、今後の協議になるかと思っています。

委員長 次は企業誘致課の説明よろしくをお願いします。

企業誘致課（P54～P55） について説明

松岡委員 P54の構成事務事業の事務事業名の中の大津町工場等振興奨励事業は具体的にどういうことをなさるのかお伺いしたいのですが。

企業誘致課 投資金額が3,000万円以上の設備投資関係につままして、固定資産税が課税をされるわけです。その適用工場としての指定を受けると3年間25%減税しますという軽減条例です。

松岡委員 これは税の減免をするということですね。

企業誘致課 はい。私どものほうで、適用工場の指定申請を受理、認定いたしましたものにつま

して、税のほうで改めて、減免というかたちになります。

松岡委員 税金の減免を図って、誘致をしようということですね。それと、ホンダの従業員の方々が、鈴鹿かどこかに行かれたり、こちらに研究の方がおいでになると発言があったが、ホンダの今後の経営の見通しとありますが、ビジョンはどういうふうになるのかお伺いしたいのですが。

企業誘致課 本田技研さんとは、年に2回程度、定例懇談会が開かれておりますので、その内容から申し上げますと、二輪車の製造は、熊本製作所の場合、付加価値の高い大型車に特化していくという会社の方針のようでございます。先ほど言われました工場からの転勤者につきましては、鈴鹿のほうに、今、N-BOXというのが出ておりますけど、そちらの増産体制のために転勤ということをお聞きしております。

松岡委員 それは二輪ですか、四輪ですか。

企業誘致課 鈴鹿は四輪です。二輪の製作所は熊本しかございませんので、大型車に特化するということです。本田技術研究所というのは、本田技研の100%出資子会社でございますので、開発、設計等について全てその会社で行いますけども、今回、新聞紙上では、350人、転勤してきていただくということで、開発と製造が同じ熊本にあるので、非常に付加価値の高い製品を素早く生産、出荷できるということでご判断をいただいたということです。

松岡委員 ホンダの50CCのバイクは根強い人気があるわけですね。カブですね。あれも結構、人気があるのではなからうかと思うのだけど、ホンダはそちらの方に目を向かないで、大型か特殊か高性能化を持っていくということですか。

企業誘致課 二輪の国内需要につきましては、縮小傾向にあるということもございますけども、全世界的な二輪車の動向から見ますと、工場が足りないという状況が今でも続いております。東南アジアを中心に新たな二輪車製造工場が出来るといってもございます。その、母体、マザー工場のような位置づけに、また戻っていただければいいなと考えております。

委員長 最後に人権推進課の関係の説明をいただきたいと存じます。

人権推進課 (P109～P110) より説明

松岡委員 今一番問題となっている学校の中で、いじめの問題について、話し合いがどのくらいなされているのか、自主的な活動がなされているのか、それをちょっと心配はします。人権教育啓発の中で、子どもさんのいじめはどうですか。学校ではあっていませんか。

人権推進課 学校でどのようないじめ問題が起きているかということは、教育委員会の方になります。人権推進課には報告はあがってきておりませんが、最近、聞きましたのは、福島の方

から転校してこられた生徒さんに対して、大津町の子どもとケンカみたいになって、大津町の子どもが差別発言をされたということはありません。

松岡委員　そういうのが出てくると思うから、この問題は教育委員会でやってくださいとかではなくて複眼的に人権という立場の視点からも、見ていくことは必要ではなかろうかと思えます。差別される側も大事だけでも、差別する側も両方あって、初めてこれは解決していくのではなかろうかなと。そして、人間的な資質を高めることによってしか解決できないのではないだろうかと思えます。

委員長　予定されておりました6つの課の事業についてもご審議、以上で終了であります。全体を通してのご意見等はございませんでしょうか。

松岡委員　メニューを出来るだけ整理してほしいと思います。いっぱいあると、もう時間になると発言を控えるのです。メニューを少な目にして、充実したこの会になるように、これを受けて、どのように町の行政が変わっていったのかということを考えていただきたいと思うのです。時間が制限されると言うことも言えないわけでございますので、そのあたりは、よろしく願いいたします。

委員長　貴重なご意見ありがとうございます。非常に大事なご指摘だと思います。

最後に整理をさせていただくと、後で資料で回答するというものが2件あったと思えます。ひとつは、大津町の平均寿命の実態、その資料とマッサージに対する他団体の助成の現況、それについてお調べをいただいて資料をもらいたいと、これはまた、事務局で調整のほうよろしく願いいたします。

それでは最後になりましたが、皆様長時間にわたりありがとうございます。

第1回大津町振興総合計画等評価委員会終了